

平成 29 年度 卒業証書授与式  
式 辞

例年にない寒波と大雪に見舞われた冬も終わりに近づき、春の息吹を感じるようになってきました。本日はご多忙の中、島根県教育委員会から津森 敬次 様、松農会会長 浅野 俊雄 様、PTA 会長 野々村卓也 様をはじめ多くのご来賓の皆様にご臨席を賜り、第 116 回の卒業証書授与式をこのように盛大に挙行できますことを心から御礼申し上げます。ありがとうございます。

138 名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうでございます。本校での 3 年間、そしてこれまで生きてきた 18 年間の皆さんのたゆまぬ努力と研鑽を心から讃えたいと思います。本日のこの喜びの日を迎えることができたのは、もちろん皆さんの頑張りの成果なのですが、皆さんのことを絶えず気遣いながら支えてくださったご家族や周囲の皆様のお陰であることも忘れてはいけません。

平成 27 年 4 月 9 日の入学式、その式辞で私は校訓の意味をお話ししました。「質実・剛健」「自主・創造」「奉仕・協同」そして「全ての蕾よ花と咲け」の成り立ちとその思いです。当時私は皆さんとともに松江農林高校の校長として新たな第一歩を歩み出したので、歴史あるこの松江農林高校の校訓とともに皆さんを 3 年間でしっかりと育てていきたい、松江農林高校のさらなる飛躍を期待し、皆さんとともに頑張りたいという思いからでした。

話は変わりますが、先日、平昌オリンピックが閉幕しました。日本人選手の活躍が目立ち、冬季オリンピックで最多のメダルを獲得したことが話題になっています。様々な競技で若きアスリートのオリンピックにかける執念と情熱が報道されてきました。私が特に注目したのがスピードスケート女子のチームパシュートです。決勝戦の相手はオランダ。4 年前のオリンピックでは 12 秒差、およそ半周の差をつけられて惨敗した相手です。日本の出場選手とオランダの選手の個人成績を見たときには、オランダが有利という状況でした。このオリンピックに備え日本チームはチーム力でどのように勝つかを研究し、実践したようです。1 + 1 + 1 が 3 以上の力になるようにチーム力を鍛えて成果をあげたということです。流れるような高速での先頭交代と、前後の選手が数十センチの極限の近さで滑る一糸乱れぬ隊列は、他国を圧倒するものでした。一人一人の力は相手に叶わなくても、チームとしてその組織が連携し、協同したときには大きな力が出ることを証明してくれたと思います。

皆さんもこの 3 年間、一人ではどうしようもなかったことや困ったことなどチームとして行うことで解決したと、大きな成果をあげたことが多々あるのではないのでしょうか。チームで協力すること、同じ目標に向かって努力すること、これはこれからも皆さんにとって大事なこととなります。これからの時代を生きていく皆さんにとって必要となる力はいろいろ言われていますが、その一つにコラボレーション力やコミュニケーション力が言われています。考え、判断し、表現し、実践することと、それを人とつながって協力してやろうとする力です。一人ではできそうにないこと、不可能と思われることでもチームとして関わっていくことで可能になってきます。

今年のスローガンは後ろに掲げてありますが、「松農 stage118 新たな歴史を刻め ～美しく咲け 439 の蕾～」です。これは代表生徒が考えてくれたものです。全ての生徒に美しく咲いてほしいという願いが込められていると思います。それはチーム松農として皆で様々なことを成し遂げよう、という思いと願いです。こうやって、同じ目標に向かって頑張ってきた友は、一生の宝です。大事にしてください。本日、卒業してゆく 138 の蕾は美しく咲きました。これから新しい学校で、職場でそして社会で美しく咲き続けてください。私たちは、いつまでも応援しています。

最後になりましたが、保護者の皆様にはこの 3 年間時には厳しく、時には優しくお子様を励まし、支えていただき、また本校の教育活動に絶大なるご理解とご協力を賜りましたことに心から感謝申し上げますとともに、深く敬意を表します。

卒業生のみなさんは、将来この地域を支える立派な社会人となり、地域や社会で必要とされる人材に育ってくれると教職員一同確信しています。卒業生の皆さんそして保護者の皆様と 3 年間ここで過ごせたことに感謝しつつ、「チーム松農 第 116 期卒業生」の皆さん、皆さんの前途が洋々で、幸多きことを心から祈念し式辞と致します。

平成 30 年 3 月 1 日

島根県立松江農林高等学校  
校長 吉 川 靖